

* 感染症情報 *

< 感染性胃腸炎 >

1) 感染性胃腸炎とは

嘔吐と下痢が突然始まることが特徴。ウイルスによる腸管感染症が多いノロウイルス、ロタウイルスは冬季に多く、アデノウイルスは年間を通して発生する。ロタウイルスやアデノウイルスによるものは乳幼児が多くみられる。

2) 主な病検体

ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス

3) 潜伏期間

ノロウイルスは12～48時間、ロタウイルスは1～3日
アデノウイルスは3～10日です。

4) 感染経路

飛沫感染、接触感染、経口感染。ノロウイルスなどは貝などの食品を介しての感染もある。嘔吐物、便中に多くのウイルスが出ている。感染力は急性期が最も強く、便中にウイルスが3週間以上排出されることもある。

5) 症状

嘔吐と下痢が主症状で発熱する場合がある。
多くは2～7日で治まるが、脱水、けいれん、脳症、腸重積などを合併し、危険な状態になることがある。脱水に対する予防や治療は最も大切です。

6) 予防法・ワクチン

ロタウイルスに対してはワクチンがあるが、飛沫、接触、経口感染に関しては一般的な予防法が重要（手洗いなど）
ノロウイルスに関してはアルコールでの消毒は効果がないため熱湯（1分以上）、0.05%～0.1%次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒が必要。

7) 登園の目安

症状のある間が主なウイルスの排出期間であるが回復後も数週にわたって便からウイルスが排出されることがある。下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい場合は登園可能ですがかかりつけ医の指示に従ってください。
登園時には、保護者記入の登園許可証を持参ください。